

ようこそ 教育長室へ

教育長 高木 秀人

2月12日(木)に2月市議会定例会が開会し、市長の「施政方針」と教育委員会の「教育行政運営方針」の演説が行われました。今回から2回に渡りご報告いたします。

市長の「施政方針」(教育委員会関連抜粋) <https://www.city.ichikawa.lg.jp/common/new02/file/0000504607.pdf>**はじめに**

(前略)

市長に就任してから4年間、市民の皆さんから託された重責を片時も忘れることなく、「市民目線」「現場主義」を一貫してまいりました。

その中心にあったのは、市民の皆さんとの「対話」です。就任以来、計40回開催したタウンミーティングには、延べ1,145人の方々にご参加いただき、自治会や子ども会育成会連絡協議会、民生委員児童委員協議会などの皆さんから、より市民生活に近い生の声を伺ってまいりました。時には、児童議会で、小学生から鋭いご意見やご質問をいただいたこともありました。

皆さんと膝を突き合わせる中で受け取った「市川市をもっと良くしたい」という熱い想い、その一つひとつをカタチにし、市民の皆さんとともに「より良い市川」をつくり上げることが、行政の役割と果たすべき責であると考えています。

私はこの考えのもと、職員とともに汗を流し、様々な施策を実施してまいりました。本市の未来を担うこどもたちには、学校給食費の無償化や第2子以降の保育料の無償化、また、子ども医療費助成を18歳まで拡大するなどの施策を、国や県に先駆けて実現しました。

(中略)

未来を担うこどもたちは、本市の大切な宝です。

学校教育におきまして、令和8年度は、「教育改革元年」を宣言したいと思います。教育に関わる皆さんと、保護者の皆さんのご理解を得ながら、「市川市教育振興大綱具体化パッケージ～市川クオリティ・ログス～言葉の力で未来を拓く市川の教育」の5つの重点方針となる「中学校卒業まで学びの連続性の全校展開」「誰一人取り残さない学びの保障」「世界につながる市川版英語教育」「乳幼児期からはじまる読書環境の充実」「子どもの健康と安全・安心の確保」を教育委員会とともに推進することで、市立学校における学びの質を高めてまいります。

15歳までに確かな学力を身に付け、豊かな心と健康の育成を図ることで日本人としての魅力を高めるとともに、この市川の地から、世界へ羽ばたく人材を育成していきたいと思います。

(後略)

主な施策

(前略)

昨年8月、私は被爆地である広島市、長崎市の両市長とお会いし、平和への想いを次世代へ伝えていくことの大切さを共有しました。

また、同じく8月に、市内の中学生16名が広島市へ派遣され、被爆の実態を学び、自らも平和の担い手であると自覚してくれたことは、大きな意義があるものと受け止めております。

若い世代が平和について考える機会を創出していくため、今後も、被爆を受けたまちへの派遣を行い、平和学習を継続してまいります。

(中略)

障がいのある方が住み慣れた地域で、自分らしく暮らせるよう取り組みを進めてまいります。

そのために、求められる特別支援教育の環境整備や支援体制の充実を図ります。

(後略)

結 び

(前略)

県内で4番目となる50万人都市への仲間入りは、本市がそれだけ多くの方々に「住みたい」「住み続けたい」と認められ、選ばれてきた証であり、このまちに関わってきた全ての方々が、まちの安全・安心、子育て環境、教育、高齢者や障がい者施策など、手を取り合って進めてきたまちづくりの成果にほかなりません。

(中略)

私は、日ごろから市川市を愛してくださっている市民の皆さんへの感謝を決して忘れることはありません。

もし、その中に、困難に直面している方がいらしたら、あるべき共生社会のあり方を模索しつつ、誰一人取り残さないあたたかなまち、市川市の実現を着実に進めていきたいと考えております。

(後略)